

実社会への行動経済学の応用:働き方改革・COVID-19

国際商経学部 黒川 博文



キーワード

行動経済学、ナッジ、労働経済学、経済実験、因果推論を用いた効果検証

研究概要

行動経済学や労働経済学に関して、経済実験やアンケート調査等を用いた実証研究を行っている。近年の関心事は、働き方改革の効果検証である。例えば、提供を受けた人事データと独自アンケート調査を組み合わせ分析を行った。その結果、長時間労働をしやすい人は、子供のころ夏休みの宿題を後回しにしていた人や、他人を気にする人であることを明らかにした。また、残業の上限目標も残業時間削減に効果があることが同データから明らかにした。

また、COVID-19に対する感染予防行動を促進するナッジを検証中である。手洗い、3密回避の促進を中心に検証しているが、テレワークや時差通勤などの促進も重要な課題ある。

アピールポイント

アサヒビル最優秀論文賞、行動経済学会奨励賞、労働経済学コンファレンスポスターセッション優秀賞など受賞。実データおよび実験データによる因果推論を用いた研究を多数実施。また、行動経済学の活用に力点を置いた書籍を出版。経済学の知見を実務へ応用することに努めている。

応用分野

制度設計、制度変更の効果検証、人事データ分析、テレワークの促進
感染予防対策

